



応用動物行動学: アニマルウェルフェアを科学する

Animal Welfare & Behaviour

准教授 二宮 茂

動物管理学研究室では、動物の福祉と行動の研究を通して動物の飼い方を科学的に発展させることを目指しています。

(研究)動物の行動からアニマルウェルフェアを評価する！！

動物の状態を把握することは飼育管理上、重要な作業です。その際、アニマルウェルフェアを主な判断材料として、動物の肉体面および精神面を客観的に評価します。その指標の1つに、動物の行動があります。行動から動物の何が分かるのか？本研究室の研究テーマの1つです。例えば、ウマの授乳行動の発現と子ウマの体重増加には、負の相関関係がある事を明らかにしました。ただし、生後1週間に限った現象で、それ以降はこの関係は見られなくなります。



アニマルウェルフェア(動物の福祉)の管理

アニマルウェルフェアは「動物がよく暮らしている」という意味を含んだ言葉です。飼育する動物のウェルフェアを適切に管理することは、動物が良い状態で生活・生存することによりその能力を十分に発揮させることにつながり、飼育目的の達成にも貢献します。そのため、アニマルウェルフェアの管理は実用的かつ実践的な作業と言えます。5つの自由(FAWC 1992、右を参照)などを参考にして、飼育する動物を複数の側面から管理します。

- ①空腹・渇きからの自由
- ②不快感からの自由
- ③痛み・怪我・病気からの自由
- ④正常行動を発現することの自由
- ⑤恐怖・苦悩からの自由



飼育現場でアニマルウェルフェアの管理を普及させる取り組みも行っています。

飼育下の動物の行動に関する研究例



アジアゾウの往復歩行(同じ場所を行ったり来たりする行動)の原因を探っています。動物の行動を多角的に研究します。



新奇物に対する子ウシの反応を調査しています。動物の行動反応に影響を与える要因を分析します。



ディープラーニングの技術を用いて動物の行動を自動検出し、行動観察を省力化します。